

作成日 #####

作成者 森永 康友

確認日 2006年9月22日

確認者 京都確認検査機構

(1) 建物概要

建物名称	(仮称)西京極畔勝町マンション	敷地面積	796 m ²	
建物用途	集合住宅	建築面積	475 m ²	
建設地	京都府京都市	延床面積	2,708 m ²	
気候区分	地域区分	階数	地上6F	
地域・地区	第1種住居地域、第2種住居地域	構造	RC造	
竣工年	2007年6月 予定	平均居住人員	72 人	
		年間使用時間	8,760 時間/年	

(2-1) 環境性能評価結果 (バーチャート)

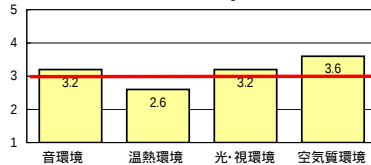
注1

Q 建築物の環境品質・性能 (居住環境のアメニティを向上させる性能評価)

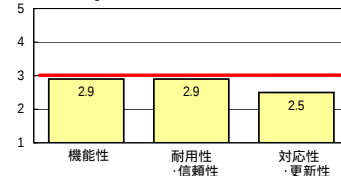
SQ= 2.6

Q-1 室内環境
スコア(評価点):

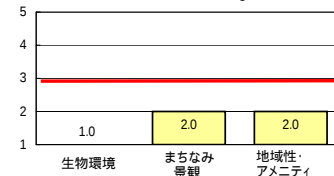
SQ1 = 3.1

Q-2 サービス性能
スコア(評価点):

SQ2 = 2.8

Q-3 室外環境(敷地内)
スコア(評価点):

SQ3 = 1.7

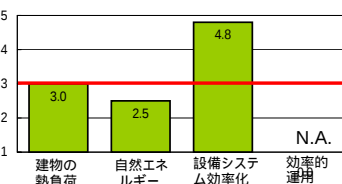


LR 建築物の環境負荷低減性 (環境負荷を低減させる性能評価)

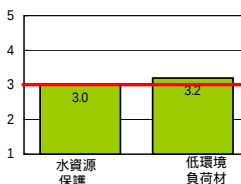
SLR= 3.0

LR-1 エネルギー
スコア(評価点):

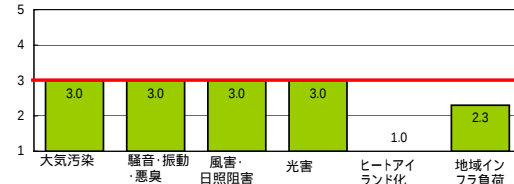
SLR1 = 3.6

LR-2 資源・マテリアル
スコア(評価点):

SLR2 = 3.1

LR-3 敷地外環境
スコア(評価点):

SLR3 = 2.2



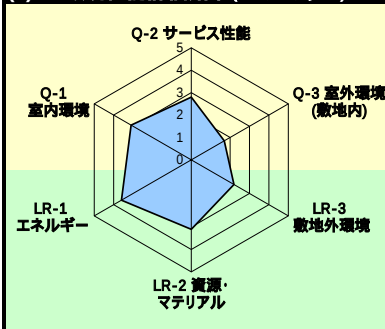
(2-2) 環境性能評価結果(レーダーチャート)

注1

(2-3) 環境性能効率

BEE

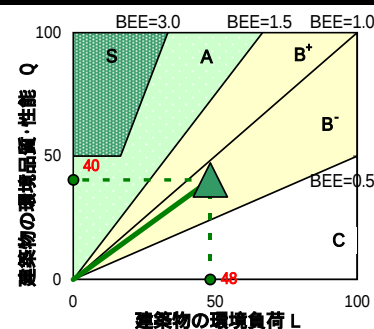
注2



$$BEE = \frac{\text{建築物の環境品質・性能 } Q}{\text{建築物の環境負荷 } L}$$

$$= \frac{25 \times (SQ - 1)}{25 \times (5 - SLR)}$$

$$= \frac{40.3}{48.2} = 0.8$$



(3) 建築物の総合的な環境性能とは別枠の重要評価項目

注3

(3-1) 建築物の代表的な環境負荷に関する定量的な評価指標

<実施設計段階、竣工段階で詳細な評価を行う場合に記入>

	年間延床面積あたり指標	人・時間あたり指標	年間延床面積あたり削減量	削減率 %	0	10	20	30	40	50 %
運用エネルギー消費量	MJ/年m ²	MJ/人時	MJ/年m ²							
運用CO ₂ 排出量	kg-CO ₂ /年m ²	kg-CO ₂ /人時	kg-CO ₂ /年m ²							
水消費量	m ³ /年m ²	m ³ /人時	m ³ /年m ²							
LCCO ₂ 排出量	kg-CO ₂ /年m ²	kg-CO ₂ /人時	kg-CO ₂ /年m ²							
LC廃棄物量	t/年m ²	t/人時	t/年m ²							
LC資源消費量	t/年m ²	t/人時	t/年m ²							

(3-2) デザインプロセスの評価

設計段階	建設段階
有資格者による設計	環境管理計画

凡例
備考

Q: Quality L: Load LR: Load Reduction SQ: Score of Q category SLR: Score of LR category
注1: 当該対象区における標準的な計画の得点が3点。NAは評価対象外とした項目を示す。敷地選定に関わる評価は対象外。
注2: Qは、環境品質・性能(Q)のスコアSQ(Q-1, Q-2, Q-3)のスコアにそれぞれの重み係数を乗じた合計値)から算定。
Lは、環境負荷低減性(LR)のスコアSLR(LR-1, LR-2, LR-3)のスコアにそれぞれの重み係数を乗じた合計値)から算定。
注3: (3)の評価はオプションとし、実施設計段階および竣工段階で可能な範囲で記入する。

BEE: Building Environmental Efficiency